

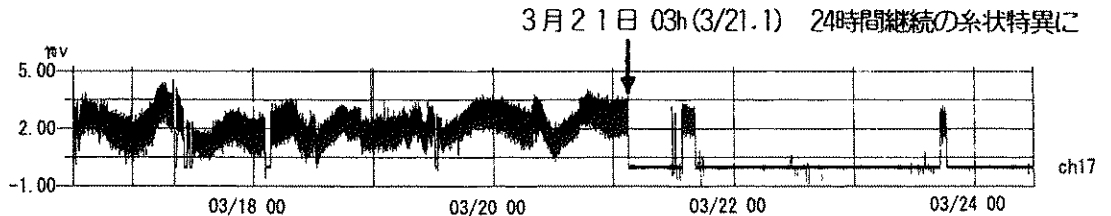
原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254  
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 CH17糸状特異→24時間継続 3月中発生の可能性否定

No.1778-第14ステージとNo.2710が示す3月25日±は発生日ではなく、極大が出現する可能性有

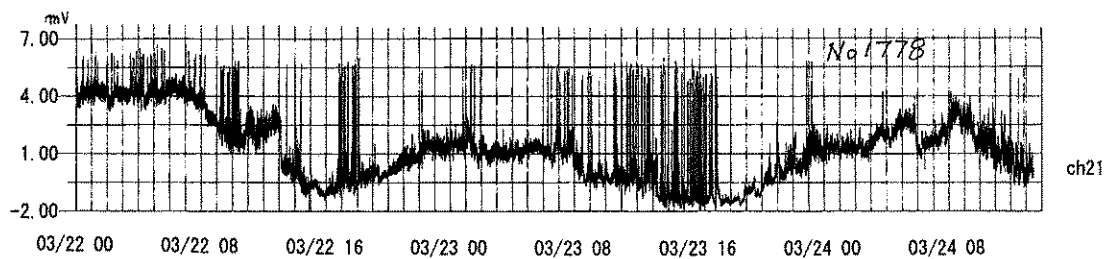
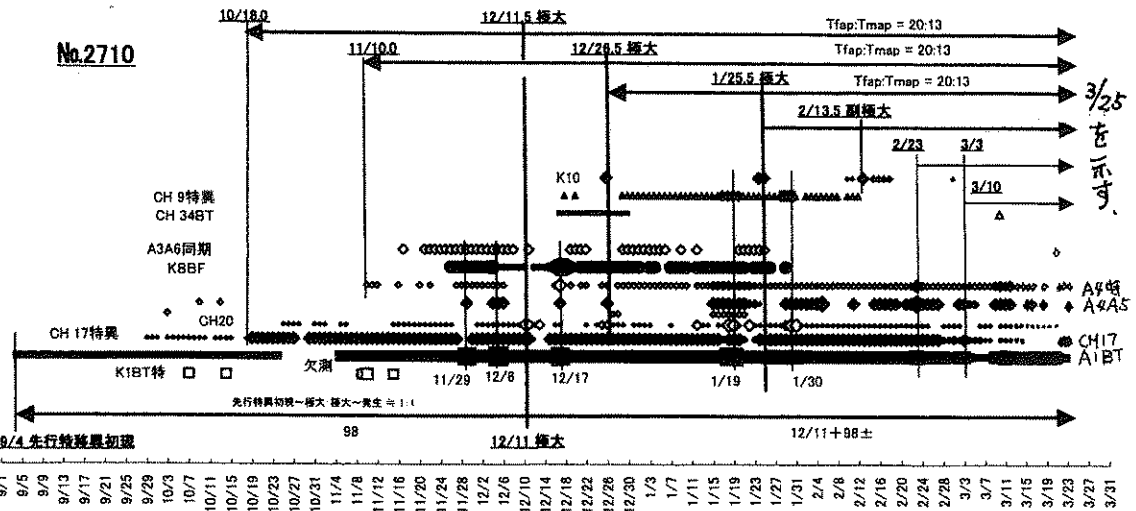
長期前兆No.1778続報。  
No.1778前兆第14ステージとNo.2710前兆の動向(初現～極大)認識から、経験則を使用して3月25日±が求められてきました。



3月25日が対応地震発生日である可能性も十分考えられ、前兆終息変化を見ていました。

ハヶ岳のCH21はNo.2710と同期して小ピークが出現していましたが、最終同期小ピークは3/19.6が最後であったため、仮に3/25±発生の場合は、3/24未明にはCH21の特異が終息する筈であることが計算できます。

しかし、3/24午後現在、CH21特異は継続中です。誤差範囲で3/26発生の場合でも、本日夕刻には終息する計算となりますが、右CH21基線のとおり、特異状態継続中で、数時間内に終息する様には見えません。右波形は本日15時迄の基線波形ですが、15:30からは糸状態に近き基線となっています。また、秋田観測点の複数前兆も継続出現中です。



更に3/21未明からハヶ岳のCH17基線が一番上の掲載基線のとおり、24時間継続の糸状特異が出現し、現在も継続しています。これらのことから、No.1778第14ステージとNo.2710前兆が示す3月25日±は、対応地震発生日では無いと判断されます。

3/25 極大が出現した場合→4月2日±を示す可能性有

3/25±が発生日では無いとすると、過去例から3/25±に極大が出現する可能性が示唆されます。この場合、最近の変化の中で注目されるのは、3/21.1から24時間継続糸状態特異となって継続しているCH17です。この前兆変化は重視すべきと考えます。考えやすいのは、CH17の24時間糸状態特異出現開始の3/21.1を初現とするものです。仮に現在推定されている3/25.4に極大が出現した場合は、3/21.1 初現 — 3/25.4 極大 → 4/2.4±の関係となる可能性があります。3/25±にいずれかの観測装置

に極大が出現するか、まだ未確認ですので、推定すべきではないかもしれませんが、No.1778の今までのパターンからしますと、示された日に極大が出現する可能性は極めて高く、3/25±に極大が出現した場合は、その初現として、3/21のCH17糸状特異が考え易いことを参考迄に報告致しました。実際に3/25±にいずれかの観測装置に極大が出現するか、観測して続報します。※通常の地震前兆とは全くことなる観測歴上最長継続で非常に特殊な前兆出現形態であるNo.1778は、最終段階でも簡単ではない様です。